１.３.３　動物

(1)　ほ乳類

- 青梅の森で確認されたほ乳類は、６目１３科１９種であり、注目されるほ乳類としては、ジネズミ、ヒミズ、ヤマコウモリ、ニホンリス、ムササビ、カヤネズミ、タヌキ、キツネ、テン、アナグマ、イノシシ、ニホンカモシカの１２種が挙げられる。

　なお、青梅の森に繁殖している可能性の高いものとしては、ニホンリス、ムササビ、タヌキ、キツネ、テン、アナグマが考えられる。

(2)　鳥類

- 青梅の森で確認された鳥類は、外来種を含めると１４目３６科９４種であり、このうち注目される鳥類としては、ミゾゴイ、ミサゴ、ハチクマ、オオタカ、ツミ、ハイタカ、ノスリ、サシバ、クマタカ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、ヤマドリ、ヤマシギ、フクロウ、ヨタカ、ヒメアマツバメ、サンショウクイ、コサメビタキ、サンコウチョウの１９種が挙げられる。近年はガビチョウなどの外来種も見られるようになった。

(3)　は虫類・両生類

- 青梅の森で確認されたは虫類は、トカゲ目の４科１０種で、このうち注目されるは虫類としては、ニホントカゲ、タカチホヘビ、ジムグリ、アオダイショウ、シロマダラ、ヒバカリの６種が挙げられる。

　また、青梅の森で確認された両生類は、２目５科９種で、このうち注目される両生類としては、ニホンイモリ、タゴガエル、モリアオガエルの３種が挙げられる。

(4)　昆虫類

- 青梅の森で確認された昆虫類は、１８目１９９科６８５種である。東京都の保護上重要な野生生物（１９９８年、東京都作成）の選定種のうちＢランクであるルリボシヤンマ、Ｃランクであるタカネトンボやオオトラフコガネなどの生息も確認されており、注目される昆虫類としては、４目１０科２３種が挙げられる。

(5)　水生動物

- 青梅の森および周辺で確認された水生動物は、底生動物が８綱２１目１８４種、魚類がウグイ、アブラハヤ、ドジョウ、ホトケドジョウ、カジカの２目３科５種である。なお、青梅の森内の水路で確認された底生動物としては、カワニナ（マキガイ綱ニナ目）、サワガニ（甲殻綱エビ目）、シマアメンボ（昆虫綱カメムシ目）などが、魚類としてはドジョウ、ホトケドジョウの２種が挙げられる。

　東京都の保護上重要な野生生物（１９８８年、東京都作成）の選定種のうちＢランクであるルリボシヤンマやＣランクであるコサナエなどの生息も確認されており、このうち注目される底生動物は、１１種が挙げられ、注目される魚類はホトケドジョウが挙げられる。

１.３.４　歴史的資源

- 青梅の森内の東側の尾根部には、４か所の埋蔵文化財包蔵地が分布しており、青梅市教育委員会の調査によれば、縄文早期から後期に作られた縄文土器片や黒曜石※9　片などが発掘されている。

　また、南東部の尾根沿いに昭和初期の庭園跡（指田氏別荘跡地）があり、現在でも高さ５メートル程度の石灯ろうが残っている。

１.３.５　周辺施設

- 青梅の森の南側は永山公園に隣接しており、永山公園の施設として風の子太陽の子広場や駐車場などが整備されている。風の子太陽の子広場には管理事務所（会議室５４平方メートル）と駐車場（普通車７～８台）があり、永山公園東側の青梅鉄道公園付近には永山公園大型駐車場（大型車７台）と永山公園駐車場（普通車５４台）がある。また、永山公園内には青梅丘陵ハイキングコースがＪＲ青梅線青梅駅から永山公園内を通り、奥多摩方面に向かって整備されている。青梅の森からはやや離れるがＪＲ青梅線東青梅駅から霞丘陵ハイキングコースが整備されており、青梅の森は、２本のハイキングコースの中間に位置している。

　一方、南西側に東京都立青梅総合高等学校の演習林が隣接しており、演習林内に遊歩道が整備されている。また、周辺には多くの社寺仏閣が位置しており、成木街道沿いには虎柏（とらかしわ）神社（諏訪宮）や天寧寺、青梅の森北側の小曾木街道沿いには聞修院（もんしゅういん）や秋葉神社、大熊神社がある。また、青梅の森の北側に接して谷津稲荷神社があり、青梅の森の南側と風の子太陽の子広場に接して石動（ゆするぎ）神社がある。

１.３.６　青梅の森の現状と課題

- 青梅の森には、注目種を含めた様々な動植物が生息し、豊富な自然環境が残る場所である。市街地に隣接していることもあり、市民にとって最も身近で貴重な環境資源であるといえる。

　しかし、自然豊かに見える青梅の森は、昭和３０年代から民間事業者により住宅地開発が予定されていた区域であり、社会情勢の変化等から手入れがなされないまま、４０年以上放置されてきた。そのため、広葉樹林も人工林※7　も年老いた樹木が多い。人工林は、４０年近く枝打ちや間伐※10 が行われないまま放置され、手入れ不足の林齢５０～６０年の林が大半を占めている。約２０年で伐採※11 し更新を繰り返してきた薪炭林※12 であった広葉樹林は、林齢５０～６０年のかつてないほど高齢な広葉樹林となっている。

　薪炭林であった当時の青梅の森の広葉樹林は、伐採・更新を繰り返してきたことで、林齢の異なる多様な自然環境が作られ、多様な動植物の生育・生息の基盤となってきた。

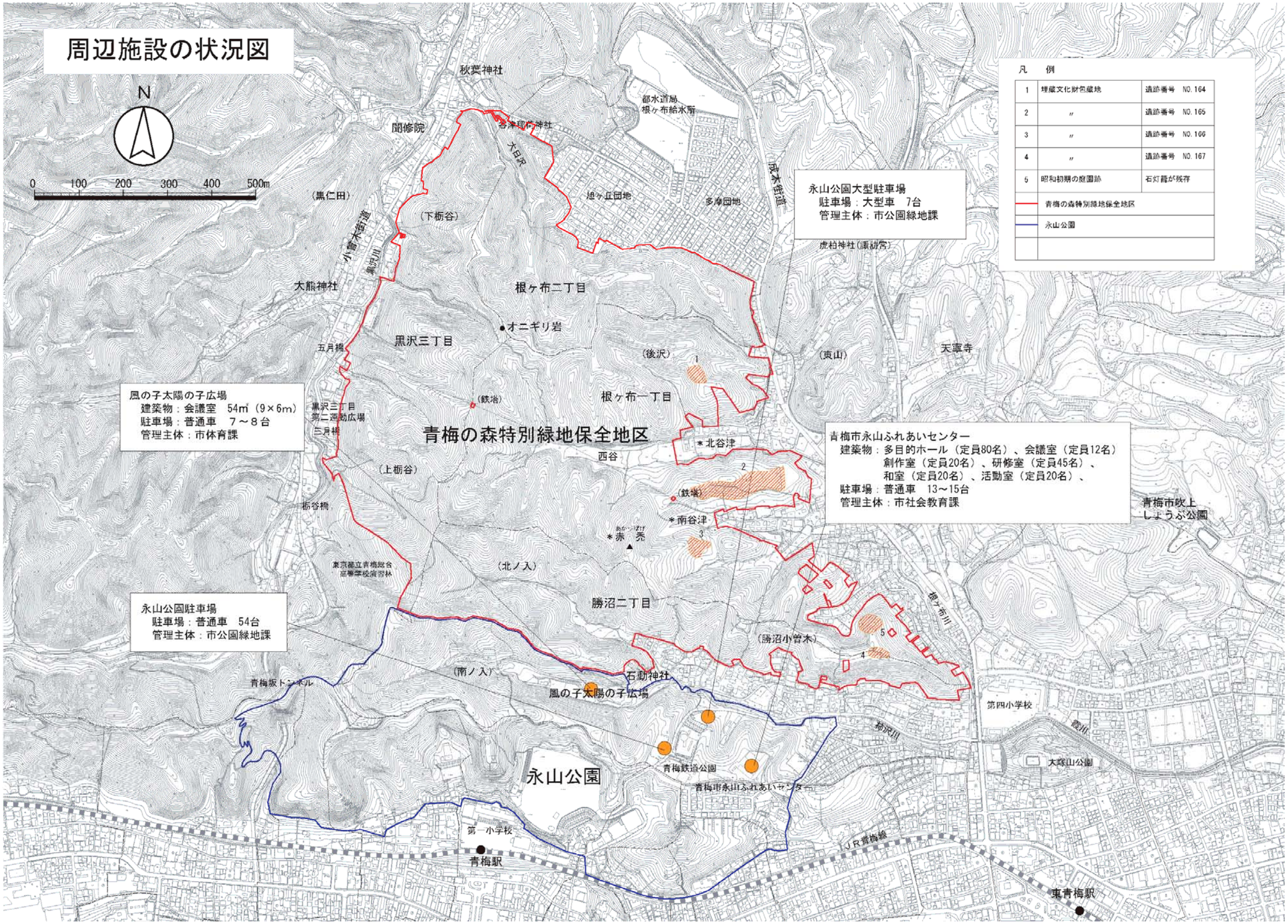
※　９　黒　曜　石：火山岩の一種。
※１０　間　　伐：樹木の生育を促すために間引くための伐採。
※１１　伐　　採：森林の木竹を伐り倒すこと。通常は丸太を生産する行為をいう。
※１２　薪　炭　林：薪や炭を生産するための森林。クヌギ、ナラ、カシ類の森林が最適とされ、１０～３０年ごとに伐採され、薪炭の原料として利用される。

しかし、管理が放棄され放置されてきた青梅の森では、太陽の日差しが林床※13まで十分に行き届かず、樹木の生育環境として良い状態であるとはいえない。

青梅の森に伐採※11等の適正な管理の手を加え、木材資源の利用を図ることは、二酸化炭素の排出削減に寄与するだけでなく、生物多様性※14の回復と保全につながるものである。また、森林資源の利用を通じて市民の生活と森林との生き生きとした関係の復活が望まれるところである。

こうした状況を踏まえ、青梅の森では、野生生物の生息環境を保全し、良好な樹林状態を回復することを基本に、必要最小限の整備を行う。あわせて、市民の身近な環境学習の場、レクリエーションの場等とし、貴重な財産として未来に引き継いでいくことが望まれている。

※１３　林　　床：林の中の床。地表面のこと。
※１４　生物多様性：生態系・生物群系または地球全体に、多様な生物が存在していること。


周辺施設の状況図
N
0 100 200 300 400 500m
凡　例
1 埋蔵文化財包蔵地 遺跡番号 NO.164
2 〃 遺跡番号 NO.165
3 〃 遺跡番号 NO.166
4 〃 遺跡番号 NO.167
5 昭和初期の庭園跡 石灯籠が残存
青梅の森特別緑地保全地区
永山公園
永山公園大型駐車場
駐車場：大型車　7台
管理主体：市公園緑地課
風の子太陽の子広場
建築物：会議室　54㎡（9×6m）
駐車場：普通車　7～8台
管理主体：市体育課
青梅市永山ふれあいセンター
建築物：多目的ホール（定員80名）、会議室（定員12名）
創作室（定員20名）、研修室（定員45名）、
和室（定員20名）、活動室（定員20名）、
駐車場：普通車　13～15台
管理主体：市社会教育課
永山公園駐車場
駐車場：普通車　54台
管理主体：市公園緑地課
秋葉神社
都水道局
根ヶ布給水所
聞修院
大日沢
旭ヶ丘団地
多摩団地
成木街道
（黒仁田）
（下栃谷）
小曽木街道
黒沢川
大熊神社
根ヶ布二丁目
オニギリ岩
黒沢三丁目
五月橋
（後沢）
（東山）
天寧寺
虎柏神社（諏訪宮）
根ヶ布一丁目
（鉄塔）
黒沢三丁目
第二運動広場
三月橋
青梅の森特別緑地保全地区
＊北谷津
西谷
（上栃谷）
栃谷橋
＊南谷津
＊赤発
東京都立青梅総合
高等学校演習林
（北ノ入）
勝沼二丁目
根ヶ布川
（勝沼小曽木）
青梅市吹上
しょうぶ公園
（南ノ入）
青梅坂トンネル
石動神社
風の子太陽の子広場
第四小学校
粉沢川
霞川
大塚山公園
青梅鉄道公園
青梅市永山ふれあいセンター
永山公園
第一小学校
青梅駅
JR青梅線
東青梅駅